

船小ハイブリッドパワー

— 学校と家庭を結ぶ —

校長室だより No.11

“やさしく かしく たくましく”

～ 本気と礼節の教育 ～

令和3年10月8日 文責:安生昌弘 あんじょうあきひろ

◆ 「ありがとう」の輪を広げたい

子ども達が登校し、昇降口から次々に入ってくる、ある朝の8時少し前のことです。校長室にいますと、廊下から2、3年生位の女の子の声が聞こえてきました。「あっ、先生。昨日(きのう)は、ありがとうございました！」

おそらくは教室に向かう先生と出くわして、昨日、具合が悪いのを世話を貰ったとか、ケガをしたのを処置して貰ったとかしたことのお礼を言っているんだなと想像しました。その“ありがとうございました”が、何とも自然で、爽やかで、子どもらしく感じられて、その日一日、気分良く過ごすことが出来ました。



また、別の朝には、こんなことがありました。時々6年生がボランティア活動として、校長室を掃除に来てくれます。掃除が終わった時、私が「ありがとう」と声を掛けると、ある女の子が「校長先生、良い一日を！」と返してくれました。

私は嬉しくなって、思わず「ありがとう」を重ねていました。

「ありがとう」という言葉は「有り難う」と書き、「有る」ことが「難しい」という意味から「滅多にないことなので感謝する」という言葉になったそうです。礼節の教育を掲げている船小にとってばかりでなく、よりよい人生を送っていくためにも大事にしたい言葉が「ありがとう」です。感謝の心を伝える言葉は、人と人との絆を強くしてくれます。子ども達の口から自然に「ありがとう」という言葉が溢れる学校になると良いなあと思います。そしてまた、「ありがとう」と言いたくなる、思いやりのある言葉かけや行動が溢れる学校になると良いなあと願っています。

◆ 学期末の先生の仕事

子ども達には、今日『ふねひきっ子 通信』が渡されました。良くご覧になって、子ども達を褒めたり、励ましたりする材料として頂きたいと思います。この所謂、通信簿の作成を、先生は夏休み中から行ってきました。ですが、夏休みでグッと力を伸ばす子どもも居るので、9月中旬以降に先生の学期末の仕事が佳境に入ったと言えます。特に所見を書くという仕事は、文章を生み出すことになるので、時間と労力の要る仕事です。文章に込めた先生の思いを読み取っていただければ幸いです。



前期末に先生方は、通常通りの授業を進めながら通信簿の準備をし、運動会の準備や練習を同時進行するという日々を送ってきました。船小教育のために邁進している先生方の心身の健康を願っている今日この頃です。

学校と家庭がタッグを組み、一つ（ハイブリッド）になって2倍以上の力（パワー）で効果的に子どもたちを育てたいと願い、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。